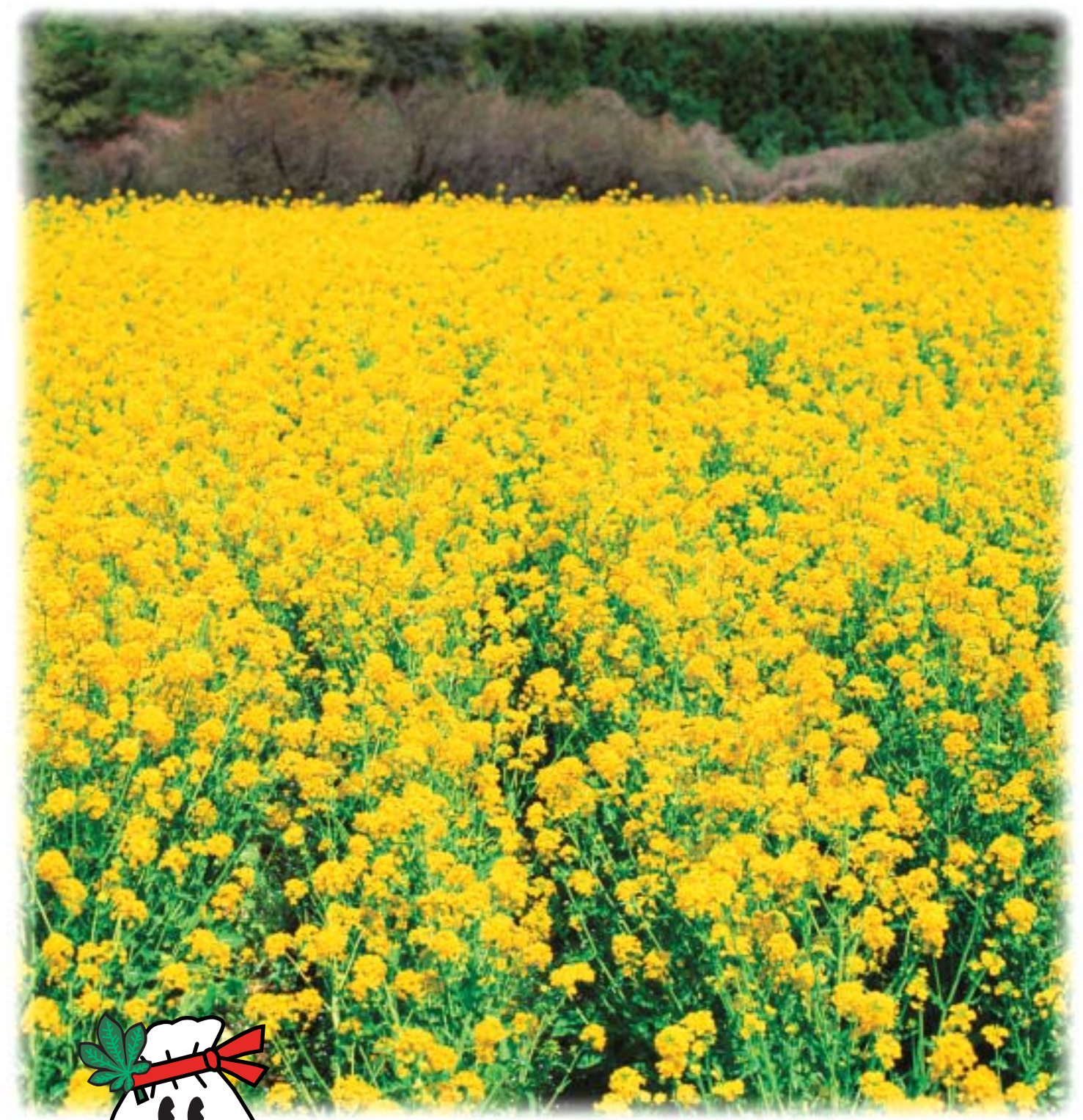


グリーン・ライフ Green Life

快適で安全な暮らしのために

ばとう



ぶんべつくん

本号では、前号に引き続き、
埼玉県営の最終処分場「埼玉県環境整備センター」
について紹介します。

埼玉県環境整備センターの
視察会（平成13年9月）に
参加された方の主なご感想を紹介します。

処分場を見た印象

当日の所長さんの説明とセンターを一見しただけで早々と結論を出すことはできませんが、寄居町の処分場は現段階では水準の高い施設のように、馬頭町の処分場もこれと同レベルのものであるなら、容認せざるを得ないのではないかと考えます。

しかし、県側で頭を下げて出来上がった寄居町の場合と、全く事情が違うのではないかとと思われるので、安全基準、住民参加、情報公開等々がどの程度のものになるのか、非常に不安です。

寄居町は、世界各国から視察に来るだけあって、よく整備が行き届いている。

イメージしてた処分場以上にきれいな所だった。

住民参加について

北沢問題は不法投棄物の処理が目的で、現に有害物質も検出されている。

処分場を作らなければ処理ができないと言うことであれば、埼玉県が住民と交わした諸々の細部にわたる協定、たとえば公害防止協定など参考に栃木県も作って住民と話し合うことが必要と考えられるがどうですか。早急をお願いしたい。

ごみ問題について

今度の参加で自分の目と耳で実態を確認し、現代社会のゴミの問題に対し、上手に付き合っていかなければと感じました。



町の花「福寿草」



- 発行—— 栃木県 生活環境部 環境整備課
〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20 TEL.028-623-3227 FAX.028-623-3113
- 問合せ先—— 栃木県 生活環境部 環境整備課 TEL.028-623-3227
馬頭町 住民生活課 環境整備対策室 TEL.0287-92-1110

（平成15年3月発行）



埼玉県環境整備センターを訪ねて

寄居町監視員の方にお話を伺いました。

埼玉県寄居町にある埼玉県環境整備センターは、全国で最初につくられた県営の管理型最終処分場です。

前号でご紹介したように、この施設には、住民参加による最終処分場の監視制度がありますが、

地元みなさんが最終処分場にどのように関わられてきたのか、お話を伺いました。

最終処分場をつくる計画

最初はどのように感じていましたか？

- 当初、地元では最終処分場計画に反対していました。しかし、そのためには、「他力本願ではなく自分たちで勉強していく姿勢をもたなくてはならない」と考え、ごみ問題に真剣に取り組みました。



最終処分場についての勉強

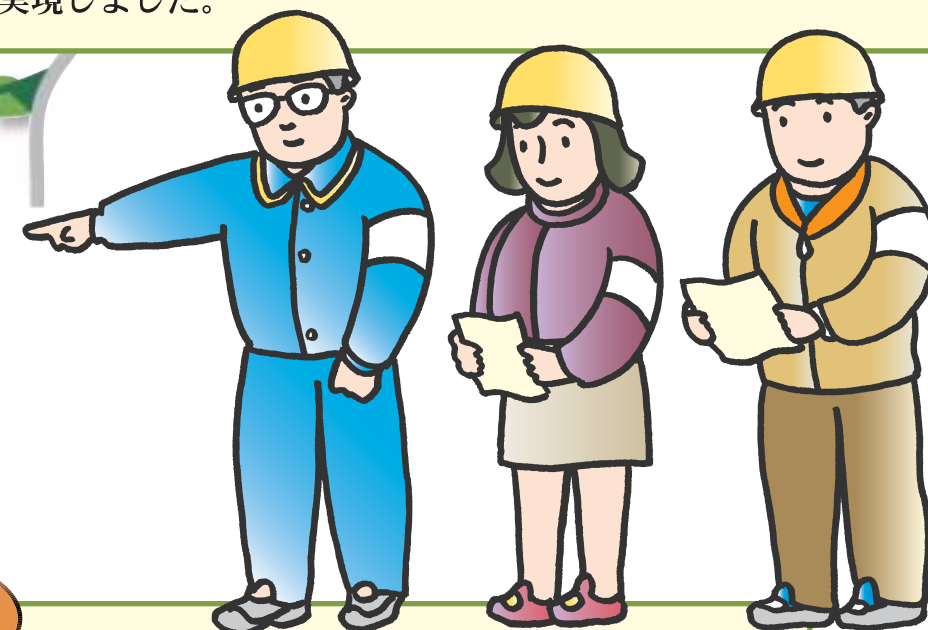
どのように勉強しましたか？

- 他の最終処分場を視察したり、環境問題に詳しい大学の先生に教えていただいたり、徹底的に勉強しました。
- 当時、一般にはあまり知られていなかったダイオキシン類についても学ぶようになったことは大きな成果だったと思います。
- このように勉強し、各地の事例を学んでいくうちに、「最終処分場は、信頼できる技術でつくり、きちんと管理すれば安全」であることが分かってきました。
- そして、埼玉県が責任を持ってつくるのであれば、最新の技術を用いて安全性の高い施設ができるだろうし、それを住民がしっかりと監視していけば、自分たちも納得できると考えるようになったのです。

住民監視制度が始まったきっかけ

どのようなきっかけで住民監視制度が始まったのですか？

- 地元では、長い間、最終処分場の建設に反対してきました。住民同士で意見が対立し、地域の人間関係が難しくなるようなこともありました。
- しかし、「自分たちが住む地域は自分たちで守っていくべきだ」という信念のもと、埼玉県と何度も話し合いを重ねる中で、最終処分場の必要性や地域の発展のことも考えるようになりました。
- そこで、「最終処分場の安全性について信頼できる技術の導入と、最終処分場ができて普段の生活が安心して送れるように地域の環境を良くすることが絶対に必要だ。」と埼玉県に申し入れました。
- こういった話し合いを続けていった中で、監視員を一般の住民から選出する制度の重要性を埼玉県も認めたことから、住民参加による監視組織が実現しました。



現在の状況

現在の状況はいかがですか？

- 埼玉県が責任を持って最終処分場を管理運営し、地元住民がしっかりした監視を続けているので、地域には最終処分場に対する不安はありません。これまでの積み重ねが住民と行政との信頼関係をつくり、今、進められている『彩の国(さいのくに)資源循環工場構想』※に発展したのだと思います。

※『彩の国(さいのくに)資源循環工場構想』

埼玉県環境整備センターの跡地利用計画(前号参照)です。

これは公共関与による全国初の総合的な資源循環型モデル施設で、最終的には約100ヘクタールの広大な緑地に囲まれた工業団地がつけられます。